

優秀賞

門掃き

真鶴町立真鶴中学校三年

松平 凜

皆さんは、京都のかど掃きという文化を知っているでしょうか。京都では、家の前を掃除するときに、隣の家との境目、向かいの家との境目から、約一尺分だけ多く掃きます。なぜほんの少しなのだろう。全部掃いてあげれば良いのに。そう思う人も居るかもしれませんが、私は京都のこの文化にこそ「助け合い」の心が表れていると考えています。私がそう考えるようになった経緯を話そうと思います。

祖母と供に、家の前の掃除をしていたときの事です。私の祖母は、今ここ真鶴に住んではいますが、関西で生まれ育った、生粋の関西人です。そんな祖母と掃除をしていたとき、私はある事を疑問に思いました。私の家の前には、とても長い階段があります。祖母はその階段の下の方まで掃除していましたが、どこも、中途半端なところでやめてしまうのです。かど掃きなんて言葉も知らなかった頃のこと。不思議に思った私は祖母に、なぜ途中でやめてしまい、全部掃かないのかと尋ねました。すると祖母は、

「これは、かど掃きといって、お隣さん、お向かいさんとの境から一尺までのところを掃くいう京都の文化なんや。」

と教えてくれました。ですが、なぜという疑問には答えてくれなかった

ため、ますます不思議でなりませんでした。そうこうしているうちに祖母は行ってしまい、腑に落ちないままその日は終わってしまいました。次の日、やっぱり気になるので祖母に尋ねてみようと思いましたが、留守で、大したことではないかと思いついてしまいました。

それから、二、三カ月後のことです。学校での道徳の授業に「かど掃き」というお話がありました。私はとても驚きましたが、これでかど掃きについて知れると、嬉しくもありました。「かど掃き」とは、京都の伝統的な文化で、隣の家、向かいの家との境を一尺分だけ多く掃く文化だそうです。また、境を一尺分以上越えて掃除することは、厳しく戒められているといえます。それは、自分が相手のことを劣者だと思っていることになり、相手のプライドを傷付けることにつながるからです。そのことを知った私は、祖母が階段全てを掃かなかった意味が分かりました。祖母は面倒で掃かなかったのではなく、相手を尊重したからこそ掃かなかったのだと分かり、嬉しくなりました。

それから、数週間が経った頃、祖母が五日程関西へ帰省することになりました。私の家族で家の手入れをしていたのは祖母です。祖母が不在の間、家が少し荒れることが気かりではありましたが、短期間だからとそれ程気にしてはいませんでした。祖母が帰省して二日後、私はあることに気が付きました。荒れるはずの家の前が、綺麗なままなのです。とても不思議に思いました。次の日の下校中私は、近所の方が私の家の前まで掃除してくださっているのを見かけました。

「有難うございます。」

と感謝を伝えると、近所の方は笑顔で

「お宅のおばあさんにはいつもお世話になっているからねえ。私が掃除出来ないときはよくやってくれたのよ。こちらこそ有難うね。」

と仰いました。それを聞いて、とても素敵な関係だと思い、嬉しくなりました。

私は、このかど掃きという文化は、助け合いの心に直結していると思います。普段は、相手を尊重しつつ、気遣い合い、誰かが困れば助ける。

そんな京都の心に学んで、これからは、相手を尊重した助け合いをしていきたいです。